

加古川紙相撲第十六回本場所

初日:2023/12/1

千秋楽:2023/12/18

Table with 15 columns (1-15) and 15 rows (1-15) listing wrestlers, their ranks, and opponents. Includes names like 羅皇, 千代菊, 大木戸, etc.

協会の生口知

引退力士
岩風万寿山部屋・元小結↓年寄北海道山
襲名前北海道山(元前頭最上山)は廃業
那珂川(保山)部屋・元小結↓年寄扇山襲
名↓西の国部屋へ移籍
廃業力士
若虎昌芳登部屋・元前頭●鴨川(紫山)
部屋・元前頭●近衛丸岩ノ城部屋・元
前頭●播州山(龍錦)部屋・元前頭●等々
力南の海部屋・元前頭●甲(小松島)
紀名虎文の里●白雷光(文の里)●大館山
(今出川)●司天竜(紫山)●鬼古賀(紫山)
●姫若子大乃森●阿修羅雄(保山)●対
馬海(龍錦)●倉吉(万寿山)

部屋だより

今出川部屋
「ホント強いよ、理事を辞して弟子の育成に専念することになった今出川親方。日本紙相撲協会の友砂理事長から送られた徳鵬が今出川部屋預かりになったのだ。『さすがに、パワー、スピード、うまさ、すべてにおいてお手本だよ』徳鵬は幕下で五連勝してその潜在能力を見せつけた。『ウチの救世主だよ』と名門復活に向けて力強くうなずくのだ。



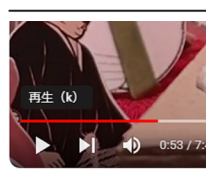
「部屋の救世主」徳鵬

荒戸部屋
部屋で唯一の関取として孤軍奮闘してきた如月。前頭二枚目で上位給当りながら五勝六敗と惜しくも勝ち越しはならなかったが、地方のあるところを示した。部屋の経営破綻で師匠が交代する騒ぎになったが、「まあ仕方ないですね。自分は精一杯頑張るだけですから。でも若い衆はそれほげ気にしてませんよ。紫雲竜は来場所が勝負だよね」と関取目前に迫った弟子の活躍に目を細めていた。



関取目前の紫雲竜

万寿山部屋
今場所から広報部長の要職に就いた万寿山親方。やはり〇〇〇〇の登録者数が増える様子。『やっとなりの大台に乗ったよ。目標は千人なんだけど、いつになることやら』となかなか結果が出ずに難儀している様子。一方部屋の方は絶好調。来場所は菊千代に大関獲りが掛かる。天狗も三役以上上がる。宇多の富士も入幕だ。みんなよくやってくれたと弟子たちの活躍に満面の笑みを浮かべていた。



今場所も残り二日！(第1回) 加古川紙相撲協会 チャンネル登録者数 33人 129 回視聴 3 日前 第16回加古川紙相撲本場所も...

文の里部屋
現役最古参の坂越海が去就が注目された。今場所は前頭六枚目の地位で二勝九敗。千秋楽の打ち出し後、井上相談役からもう十分だ。辞めれば?と声を掛けられた。それを聞いた報道陣は「坂越海も引退か」とちよつとした騒ぎになった。ところが本人は、辞めないうすよ。オレ、通算百勝を目指しているから」とまだまだ現役生活に自執心の様子だった。



現役最古参の坂越海

行司部屋
千秋楽の新横綱全勝対決という大一番は際どい相撲の物語が付いた。勝負審判の協議の間、立行司の吉田圭太郎は「差し違ひなら辞職しよう」と決意していたらしい。こんな大一番を越えなくて、生涯あるかないか...これが最後の一番になっても悔いはないという心境だったという。ところが協議の結果は取り直し。正直、ホッとしたと漏らした圭太郎。花道を引き上げる井上相談役から、「苦勞さん、来場所もよろしくね」と声を掛けられ、思わず笑みがこぼれていた。



立行司の吉田圭太郎

幕内最高優勝 横綱 羅皇 (4回目) 殊勲賞 賞賞賞 関前頭 脇頭 千代菊 代岳 天照 葵

「紙相撲はオトナの遊びですよ」 加古川紙相撲新聞社 井上慎也著
「この前勝ち越したのいつだったけ?」と報道陣に逆質問してきたのは、前頭八枚目の大入道。調べてみると最後に勝ち越したのは第十一回本場所。開場した時、「もう五場所も勝ち越してないんだね。それにはよく持っているよな」と舌を出した。ちなみにこの五場所はいすべ五勝六敗。場所後に同期だった那珂川と近衛丸が引退を表明し、「オレ、同期(第五回本場所)が十三人もいたんだけど、今残っているのはウダさん(宇陀錦)だけなんだよ。なんだかさびしいね」としみりしていた。



大乃森部屋の大入道(右)